

授業科目名	企業法務論	期別	後期	授業形態	講義 および演習
担当者名	佐野 誠	単位数	2	開講 年次	3

授業科目の概要

企業を取り巻く法務リスクは近時ますます多様化・複雑化してきており、これらに適切に対処することは経営にとっての最重要課題の一つとなっている。また、企業活動が国際化するに伴い、グローバル・スタンダードに基づくコンプライアンスが要求されてきている。本講義では、現代の企業にとって必須とされる「法務リスクマネジメント」の観点から、企業を取り巻く各種の法務リスク、法務部門の現状と課題、社内弁護士のあり方、社外弁護士との関わり方、法務以外の部門における法務リスクとの関わり、法務リスク処理の具体的例など取り上げ、企業法務について実務的アプローチを行う。

到達目標

- (1) 企業法務の基本構造を理解している。
- (2) 企業の各部門で発生する法律問題を理解している。
- (3) 法務リスクマネジメントについて理解している。
- (4) 各種の法的制度や法律問題について、企業法務の視点から問題点の分析や対策の検討ができる。

成績評価基準および方法

成績評価は、到達目標を基準として絶対評価で行う。
定期試験は行わず、討論での発言など授業における取り組み状況(50%)、および演習における報告内容(50%)により成績を評価する。

テキストおよび参考文献

テキストは使用しない。
必要な教材は事前に配布する。

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

事前配布の資料についてあらかじめ熟読すること。また、授業の中で企業法務実務の演習を行うので、これについては十分に準備してくること（1時間程度を想定）。
事後学習としては、授業内で指摘した重要点を反芻し、必要に応じて参考文献等にあたること（1時間程度を想定）。

授業計画および内容等

第1回	総論① 企業法務の機能	企業法務の意義、目的、基本的役割、企業法務部門の機能等について理解させる。
第2回	総論② 企業法務の対象	企業法務の対象分野につき具体的にアプローチする。また、企業法務部門の業務を理解させる。
第3回	総論③ 企業法務組織	企業法務の組織化、法務スタッフの階層と職務権限、法務スタッフの人的・場所的構成、企業法務部門の全体的規模等について取り上げる。
第4回	総論④ 企業法務部門の運営	企業法務の基本姿勢、法務部門の運営方針、コストコントロール、アウトソーシング、業務の効率化、スタッフの業績評価等について取り上げる。

第5回	総論⑤ 企業法務スタッフ の育成	企業法務スタッフに求められる資質、法務スタッフの教育・育成方法について 取り上げる。
第6回	総論⑥ 企業内弁護士と 秘匿特権	企業内弁護士の現状と課題、企業内弁護士と英米法における弁護士秘匿特権と の関連について考察する。
第7回	総論⑦ 社外弁護士の活用	社外弁護士の選任と管理、社外弁護士との提携と報酬、欧米ローファームによ る法務サービスの提供について取り上げる。
第8回	演習：コンプライ アンス研修①	企業の法務部が主催するコンプライアンス研修会の演習をする。受講生は企業 法務部員となり、企業を取り巻くさまざまな法的問題を取り上げ、その問題点と リスク管理のポイントについて他部門の社員に対しわかりやすく説明する。
第9回	演習：コンプライ アンス研修②	同上
第10回	演習：コンプライ アンス研修③	同上
第11回	特別講義 企業法務と弁護士	社外講師を招いて、企業内弁護士、社外弁護士の実務についての話を聞く。
第12回	各論① 法務リスクマネジ メントと保険	リスクマネジメントの基本を理解させ、法務リスクマネジメントについて実務 的アプローチを行う。また、法務リスクマネジメントの有力な手段である賠償責 任保険について、その基本概念と法的問題を理解させる。
第13回	各論② 米国の PL リスク と懲罰的損害賠償	米国における法務リスクの典型である製造物責任と懲罰的損害賠償について理 解させる。
第14回	各論③ 米国の弁護士事情	米国の弁護士に関する文献を取り上げ、米国の社会において弁護士がどのよう に評価されているかを理解させる。
第15回	各論④ 最近の動向	個人情報保護制度や公益通報者保護法など、近時の企業法務をめぐる個別課題 について、その問題点や対策を検討する。
関連 URL		
備考欄		